

美浜中学生が海外で交流し、生活・文化を学ぶ

台湾石門郷ホームステイ



8月9日から15日までの7日間、美浜中学校の生徒15人が本町と姉妹都市提携を結んでいる台湾石門郷を訪問しました。

今回の訪問は、町の将来を担う美浜中学生が石門国民中学生と交流を深めるとともに、海外の訪問先における生活や文化・施設等について見聞を広めることや、ホームステイなどの交歓・交流活動を通して、社会性・協調性を養い、新しい時代を築く心豊かでたくましい人材を養成することを目的に行われています。

美浜中学生の石門郷訪問は、平成2年以降1年おきに行われて、今回で9回目となりました。



台湾での食事の様子

台湾中正国際空港に到着すると石門郷からの出迎えがあり、生徒たちは今回のホームステイでパートナーとなる石門国民中学校の生徒たちと初顔合わせをしました。

初めての海外・仲間との出会い

生徒たちの現地での様子とその感想を紹介します



石門郷ってどんなところ？

石門郷は、台湾の最北端に位置し、面積は51.26km²(美浜町の約1/3)人口は11,554人で美浜町とほぼ同じです。

本町とは、お互いに原子力発電所が立地していることをきっかけに、昭和63年8月に姉妹都市提携を結び、以降交流を深めています。

山や丘が多く、お茶の栽培に適しており烏龍茶が特産品になっています。そのほかにもシイタケやパパイヤなども栽培されています。

また、海にも面しており、魚介類が豊富です。12kmにも及ぶ海岸線は、景観がすばらしく絶好の避暑地にもなっています。

●初めて飛行機に乗って海外へ行ききました。不安もあつたけど楽しみの方が大きかったです。

●石門郷のパートナーの子と初めて会いました。バスの中で覚えた台湾語で自己紹介をしました。あとはジェスチャーで色々なことを伝え合いました。

●初めての台湾料理にはなかなか馴染めませんでした。

●パートナーが荷物を持ってくれたり、私の腕をつかんで一緒に歩いてくれたので緊張の糸がほぐれました。

台湾での体験・交流

生徒たちは石門国民中学生たちと施設や観光地を見学したほか、台湾の芸能や文化を体験しました。

●ちまき作りや凧作りなどの体験ができて楽しかった。いろんな芸能や文化にふれることができました。

●いろいろな施設や観光地を見学しました。パートナー以外の子どもとも仲良くなりました。

●言葉が通じなくて、困ることもあったけど、伝えよつという気持ちがあれば伝えることができると感じました。

●風力発電所の風車はすごく大きかったです。原子力発電所の施設も見学してみたかったです。

●最後の夜はみんなでご飯を食べました。歌を歌ったり、たくさん話すことができて楽しかった。明日別れるのがさみしくなりました。



石門国民中学校でのちまき作り体験

ホームステイ

3日目の夜からはパートナーの自宅に3泊のホームステイを行い、それぞれの家庭で交流しました。

●3日間のホームステイは不安でいっぱいでしたが、家の人みんなが優しくすぐに馴染めました。食事にも気を使ってくれました。

●日本と違うところがあつてびっくりしました。



ホームステイ先の家族との交流

仲間との別れ

生徒たちは空港でパートナーたちに見送られ、目に涙を浮かべながら貴重な体験を胸に日本への帰路につきましました。

●一番印象に残っているのは、「親切」というものです。石門郷の人たちは初めて会う私たちにとっても親切にしてくれました。



空港での仲間との別れ

●空港のゲート前では、みんなが泣いていました。また来年の2月には日本で会えるのに別れがすごく悲しかったです。話ができなくてもきつとみんな同じ気持ちだったと思います。

●もっと台湾にいたいと思いました。1週間でたくさんいい経験ができました。2月に日本に来たときには一杯歓迎したいと思います。



初めての海外、台湾石門郷を訪問して
美浜町ジュニア対外交流団リーダー 浅妻 幹晴さん
(美浜中学校2年)

僕は最初、このホームステイに参加したいとは考えていませんでした。これまで日本を離れたことがなく、海外で親から離れて泊まることがとても不安に思えたからです。

しかし、台湾の空港に着いて、僕たちを出迎えてくれた石門郷のパートナーたちと出会い、これまでの不安が薄れ、一気に気分が盛り上がりました。

現地では、いろんな所を訪問するうちに石門郷のみんなと仲良くなる

ことができ、帰国するときには別れが悲しくてみんなで泣くほどでした。

このホームステイに参加して、本当によかったと思います。台湾の文化などを学び、体験してとてもよい勉強になりました。ホームステイに行く前の自分と今の自分がいろいろな面で変わったと感じています。

来年の2月に台湾のみんなが美浜町に来てくれて再会できるのを本当に楽しみにしています。

今回の訪問で、生徒たちは異なる文化や言語など初めての経験に戸惑いながらも多くのことを体験し、ホームステイなどを通して友情を育

みました。

来年2月には、さらなる友好を築くために石門国民中学校の生徒が本町を訪れる予定です。

美浜発電所の状況



今回の報告では、8月17日から9月15日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

3号機の今後の運転方針

美浜発電所3号機は、本年12月1日で運転開始後30年を迎えることから、去る9月8日に、関西電力(株)から「今後10年間程度運転を継続する」といった運転方針が示されました。

原子力発電所は、建設の当時(昭和40年代)から、その運転期間は30年程度といわれてきました。

国では、平成8年に高経年化対策への基本的な考え方を示すなどの対応を取ってきましたが、美浜1号機と敦賀1号機が運転開始後30年に近づくにつれ、地域住民や県民の間から、今後何年程度運転をつづけるのかといった方針を明確に示すことを求める声が多く出てきていました。

このため、県と本町を始めとした原子力発電所立地市町では、電力事業者に対して、30年を迎えるまでに以後の運転方針を示すとともに、地域住民を始め県民の理解を得ていくことを要請しました。

美浜発電所に関しては、これまでに1号機の運転方針が平成11年11月に、2号機について平成13年8月にそれぞれ示され、今日に至っています。

町では、この提示された運転方針についても、町民の皆さんに理解をしていただくことが重要であり、関西電力(株)に対して、町議会を始め町民の皆さんの理解が得られるよう努力することを強く求めました。



山口町長に3号機の運転方針を伝える藤谷原子力事業副本部長(写真左端)

美浜発電所3号機の今後の運転方針について(概要)

●美浜3号機について、運転期間を60年と仮定し、想定される劣化事象について、最新知見等を踏まえて技術的な検討、評価を行った。

●評価の結果は、これまで実施してきている保全策に加え、今後10年間に追加すべき保全策(長期保全計画)を定期事業者検査などで適切に実施していくことで、運転開始後30年を経過しても、安全に運転を継続することが可能と評価した。

●評価の結果等を「高経年化技術評価等報告書」として取りまとめ、本年1月30日に国に提出した。

●報告書の内容について、本年7月27日に、国から妥当であるとの結論を得た。

●以上のような評価を踏まえ、安全最優先に、事故の再発防止対策を着実に実施していくとともに、高経年化対策に万全を期すことにより、発電所の安全性が確保されていることを日々十分に確認しながら、引き続き、今後10年間程度、3号機の運転を継続する。

●その後の運転は、次回に実施する高経年化技術評価において発電所の長期的な安全性を再評価したうえで、その時点におけるエネルギーセキュリティ、地球温暖化対策などに果たす原子力の役割なども勘案し、関係機関と十分協議を行い、総合的に判断する。

美浜1号機

運転中 (平成17年12月6日)

美浜2号機

運転中 (平成18年6月22日)

美浜3号機

第21回定期検査中

(平成16年8月14日)

現在、9月下旬に予定されている試験的なプラントの起動に向けた、起動前準備や検査などが慎重かつ確実に進められています。



交流推進室だより

～非日常の生活から学ぶもの～

8月24日～25日に長野県の中学校の生徒44人が若狭美浜はあとふる体験に美浜町を訪れました。

長野県の間部にある学校の生徒たちは、豊かな自然に囲まれた生活を送っていますが、海がないため、1日目は海水浴、2日目は大敷網・魚のさばき方体験と美浜の海を満喫していました。

生徒たちは、24日の海水浴の後、丹生地区の漁師さんから若狭地方の伝統漁法「大敷網」の説明や漁師の暮らし方などの話を聞き、問題になっている「大型クラグ」の話を特に熱心に聞いていました。25日は朝4時に集合、生徒たちは2隻の漁船に分かれ出港し、波のたいへん穏やかな海で普段の生活では見られない海上での朝日を浴び、生徒全員が力を合わせて網を引っ張っていました。



イカやイサキ、バシヨウカジキが獲れ、味噌汁班・刺身班・焼き物班と3班に分かれインスタクターの指導により、魚のさばき方体験が始まりました。

普段、手にしない出刃包丁や海の魚に少し戸惑った様子でしたが、インスタクターの説明を聞きながら、何匹かさばくうちに「こつこつ」を覚え、それぞれが担当ごとに頑張って朝ごはん作りや食器の準備を行っていました。

「いただきます」の後、自分たちで調理した魚をおいしそうに食べ始め、味噌汁・ご飯をおかわりする姿や刺身をほおぼる姿が見られました。生徒たちが観るだけでなく、聴く、嗅ぐ、触れる、味わうの五感を使って漁業やさばき方を体験したことにより漁村の暮らしぶりや魚の生態・習性を知る旅となったことでしょう。



また、日常の生活と違う環境に身を置くことにより、新たな発見も生まれたことと思います。その発見が自分の周りの環境を見直す機会となり、一人ひとりが自分たちの暮らしの中で気を付けることを感じとり、それが環境に対する行動に繋がるのではないかと思います。これからもこの「はあとふる体験」を通して、多くの人が新しい「何か」を発見することができればと思います。

※お問い合わせ先

町商工観光課 交流推進室

若狭美浜はあとふる体験

推進協議会事務局

☎ 32-6705